



体験型 楽しく学ぶ



川崎

地震のとき
に役立つ知識

や行動を身に付けてもらおうと、川崎市川崎区の総合防災訓練が3日、市立川崎小学校で行われた。被害現場からの脱出を目指す体験型防災アトラクションも初めて実施

され、楽しみながら「自助・共助」の大切さを学んだ。

アトラクションは大阪の企業が考案したもので、神奈川県内での実施は初という。30分間の制限時間内に与えられたミッションをクリアしながら脱出を目指す内容で、地元住民ら約300人が参加した。

照明を落とし、薄暗くした体育館に家屋倒壊の現場などを再現。参加者は家族や友人同士のチームに分かれ、各ミッションのヒントが書かれた紙を探しながら「災害に備えるアイテム」や「避難時に有効な行動」などを考えた。ガラスの破片が散らばった場面や、新聞紙を使ったスリッパ作りにも取り組んだ。

考案した企業は「災害時の焦った状況で、自分がどうなるかを知ることができると。仲間と顔を合せて議論し、想像力を働かせる感覚も身に付けてほしい」と狙いを話していた。

家族4人で参加した小学校5年の小西寛弥さん(10)は「制限時間が迫り、焦ったけれどクリアできた。災害時に使えそうな情報を知ることができてよかった」と振り返った。総合防災訓練では、消火ホースキットの使い方や応急救護の方法を学び、起震車で地震の揺れを体験するコーナーも設けられた。

塩山 麻美

総合防災訓練

とともに全国瞬時警報システム(Jアラート)の音声の流れ、参加者は「その場で頭部を守る、物陰に隠れるなどの避難行動をとってください」との指示に従って、しゃがんだり、頭を手で覆ったりして防御の姿勢をとった。

60代の女性教員は「実効性には疑問も感じるが、いざというときにのために危機意識を持つという上で意義はあったと思う」。無職男性(80)は「いつ非常事態が起きてもおかしくない国際情勢になって

(草山 歩)

弾道ミサイル飛来を想定した訓練で、身を守る参加者

＝横浜市港南区

横浜

横浜市総合防災訓練が3日、同市港南区の日野中央公園で行われた。災害対応力の強化に向け、地震発生時の救助や消火方法などを学んだのに加え、弾道ミサイルの飛来を想定した安全行動も確認。地域住民や近くの学校の生徒ら約1900人が非常時に備えた。

ミサイル対応訓練は、4月に国が自治体に実施を要請したことを受け、初めて冒頭に盛り込まれた。会場となった広場では、サイレン

初のミサイル想定も 広場で防御姿勢

も

